

# 釜ヶ崎夜間学校 ニュース

2012(平成24)年

1月4日号

第231号

2012年 平成24年 辰年の始まりです。

臨時宿泊所事前登録490人 当日約50人 入所492人!?

さて、年男・年女はどれくらい居るのかな？

元日や 冥土の旅の 一里塚

めでたくもあり めでたくもなし

これは、一休禅師の歌だそう、その前に、「早く目を覚ませ」とあるのが、本当だそうです。『一休禅師は元旦に人間の頭蓋骨を振りかざして街中歩きながら歌ったといわれています。正月が来たからと人々はめでたいといっている。しかし禅師から見れば、一人生はすべて夢まぼろしの連続である。どんな人間も五色の皮で包まれている。この身もひと皮むけば骸骨でしかないではないか。早く目を覚ませと。

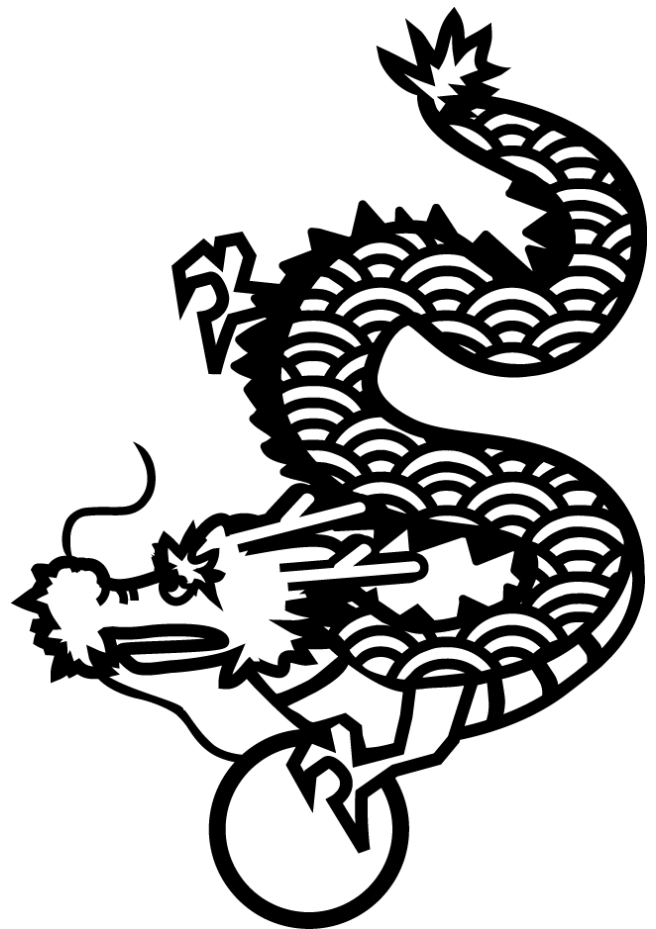
年をとるほど あの世は近い

骨になる前に 目を覚ませ

以上は、臨濟宗円覚寺派東光寺(静岡県田方郡)のホームページからの紹介です。

マア、正月だからといって浮かれる状況になくとも、少しはそれらしい気分になりたいのが人情で、取り敢えずは、命ながらえての初春のお喜びを申し上げます。ところで、人は所詮、糞袋、一皮むけば皆同じ骸骨なとと達観するのは、生活保護移行後にしませんか？

西成区の場合は・・・



西暦	和暦	年齢	総数	男	女
2000年	平成12年	12歳	622	307	315
1988年	昭和63年	24歳	985	551	434
1976年	昭和51年	36歳	1,157	595	562
1964年	昭和39年	48歳	1,398	820	578
1952年	昭和27年	60歳	2,048	1,362	686
1940年	昭和15年	72歳	2,454	1,591	863
1928年	昭和3年	84歳	902	386	516
1916年	大正5年	96歳	103	21	82
西成区の年男・年女人口=2011年・平成23年10月1日推計人口から作成。		計	9,669	5,633	4,036
60歳以上が57%を占めている。ちなみに、西成区全人口に60歳以上が占める割合は48.2%。干支で言えば、辰年生まれの人が占める割合は、8%。年齢不明は、2,179人		12歳	6.4%	5.5%	7.8%
		24歳	10.2%	9.8%	10.8%
		36歳	12.0%	10.6%	13.9%
		48歳	14.5%	14.6%	14.3%
		60歳	21.2%	24.2%	17.0%
		72歳	25.4%	28.2%	21.4%
		84歳	9.3%	6.9%	12.8%
		96歳	1.1%	0.4%	2.0%
		計	100.0%	100.0%	100.0%
		区全体	121,264	71,629	49,635
			8.0%	7.9%	8.1%

# 越年臨時宿泊所入所者数の推移と明日を考えて見ると・・・

2008 (平成20) 年度	2009 (平成21) 年度	2010 (平成22) 年度	2011 (平成23) 年度
1,324人	637人	565人	492人

あいりん対策としての年末年始の臨時宿泊所の入所者数は、2008年の1,324人から、去年の12月29日の492人まで、年々減少を続けています。

あいりん対策というのは、日雇労働者の就労機会の不安定さから生じる生活上の困難を緩和するための対策ですから、釜ヶ崎の日雇労働者が少なくなり、多くの人が生活保護へ移っていけば、越年臨時宿泊所の利用者が減少するのは、当然といえます。

表面に、西成区の年男・年女（辰年生まれの人）の推計数字の表があります。西成区の大きな特色は、男が多い釜ヶ崎の状態を反映して、他区より極端に男性の比率が高いことですが、表を見ると60歳、72歳で極端に男が多く、他の年齢ではそうでもないことが分かります。

釜ヶ崎の人口構成の西成区への反映があるのは、60～72歳の間であるといってもよさそうです。これは、かつての釜ヶ崎日雇労働者が高齢化し、日雇労働者として生活できる人が少なくなっていることを示すものだといえます。それからしても、越年臨時宿泊所の利用者が減少するのは、当然といえます。

臨泊の受付が29日の1日となり、事前登録となりました。事前登録したのは490人、当日の飛び込みが約50人、入所が492人ですから、事前登録した人のうち48人が臨泊を利用しなかった計算になります。数字だけでいえば、事前登録数＝利用者数となったことになります。

受付日が1日だけとなり、年末ぎりぎりに仕事から帰ってくる人の受け皿がなくなって、医療センター軒下で対応できなくなることも心配されましたが、31日夜の様子（不幸中の幸というべきか、二人一組の蒲団でなく一人一組で寝られていた）では、そういう傾向は大きく現れなかったようです。

盆暮れの釜ヶ崎における「里帰り」現象は、もはや大きな要素ではないことが確定したといえます。

事前登録で、浮かびあがったのは、「わしは臨泊にいかん」と決め、ある程度準備をしてセンター周辺で年越しをした人の存在です。センター周辺には、常に夜間宿所を利用しない人がいますから、いつものことといえますが、「事前登録期間」という「利用する」「しない」の選択について考える時間が明確になったことで、「利用しない」決意を固めた人が増えたように思えるのは、思い過ごしでしょうか。「生活保護申請はしない」、と決めている人も、また、多いように思えます（「先延ばししているだけ」かもしれませんが）。しかし、何事にも潮時というものはあるモンです。今が潮時と考えて、市更相で、生活保護申請を！